

フォレスト・ニュース

No.8 (不定期発行)
平成 15 年 12 月 7 日



日大構内に存在したワンダーランド！？

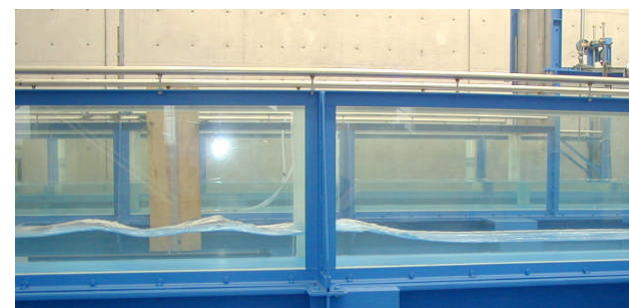
11月3日には、すっかりやみつきになった学部祭へゴー！

このチャンスに、以前から気になっていた、駅から良く見える巨大なドーム型の建物に入ることにした。いったい何があるのかワクワク・ドキドキ。中に入るや、ゴォーゴォー・ザァーザァーの水音が聞こえたのにはビックリ。

なんと、その中には川や堰、海を模した巨大な実験棟があったのだ。海洋建築や土木工学の学生が、水の動きやパワーをどう生かし、コントロールすれば、より効率的に、かつ環境にやさしくできるかの実験を重ねている。



それにしても、様々なパターンで動き、ゆらぐ水を見ているうちに、いつのまにかいやされてしまった私……。こんな“いやしワールド”が大学の中にあったのである。



ふだん私たちは気付かずにいるのだが、“治水”というのは、昔から人類にとって、重要な課題であった。ご存知の北朝鮮が、ここまで飢餓にあえぎ、洪水に苦しんでいるのも、金日成が国土の段々畑化を奨励し、その際土どめをしなかったことで、洪水の被害を大きくしたとも言われている。“水”を甘く見ては大変なことになるのだ。

また、“水”というのは、いまだ計算つくされない微妙な動きをするので、こうした実験棟の果たす役割は大きい。



秋の食事会

長い夏休みもあけた10月19日、久しぶりに恒例の食事会を開きました。

いつものように旺盛な食欲で、からあげの皿や飲み物などをカラにしていく若者を前に、「みんな、プロジェクトX見た？」と管理人は興奮気味に問いかけたのでした。「このあいだの日大人力飛行機の話、もう感動で涙ウルウルになったヨ。あの先輩方の血のにじむような努力。そして団結・・・」(カゼのナカのスバルウ〜♪)

するとボルテージ上がりすぎの管理人の熱をさますかのように、「キレイごと、キレイごと」と研究室在籍中の4年生から冷静な意見が・・・。

「研究室の中の間人間関係なんて、けっこうドロドロしてるんですから」(エッ、ドロドロってあの、江戸時代の大奥みたいに、イビリあっちゃうのかしら)と好奇心ムンムンの管理人。今度もっと突っ込んで聞いてやろう。

でも、そんな色々ある中でがんばってる4年生にたくましさも感じた管理人なのでした。



お金がないとき 30 円でおなかいっぱい！！

<材料>

春雨	ひとつかみ
とりひき肉	20g位 (残った分は冷凍)
ピーマン	1ヶ



100円ショップやスーパーで春雨をみつけたら、買っておきましょう。これは鍋物に入れてもすごくおいしいし、何といてもいつまでも保存がきくところが魅力的。そんな春雨を使って、超経済的料理を一品紹介します。

- ① 春雨はお湯で7~8分煮てザルにあけ、水道水をザーッとかけてネメリをとる。
- ② ピーマン(1ヶ)の細切りと、トリひき肉に塩・コショウ少々ふり、いためる。更に春雨を加えてしょう油、砂糖少々、ラー油(もしくはキムチの素)で味つけする。(味をみながら好みで)
- ③ ドンブリにたっぷりのご飯を盛り②をもりつけてできあがり。ピリカラ味で食がすすみます。

重曹ひとつでぜーんぶピカピカ

重曹は人体に無害(食品添加物にも使われる)な上に、シツコイ汚れを落とすのにバツグンの洗剤だったんです。ふつうの洗剤だと、使用したあとよく水洗いしたり、手肌に付着しないように注意したりと面倒ですが、重曹にはそんな心配もありません。

キッチン、お風呂、トイレ、リビング・・・これひとつあれば、まにあっちゃう安全便利な重曹。試してみてもいかが？

例えばこんなところ。

- お風呂に・・・たっぷりふり入れると、湯アカが付きにくくなります。しかも入浴剤にもなり、お湯がまるやか。寒い冬には体もあたたまります。(お肌もツルツルに) 入浴後は、中に洗面器等も入れてスポンジで浴槽といっしょに洗えば、全部かんたんにピカピカ。しかも流せば排水管の中までキレイにしてくれるスグレもの。
- キッチンに・・・汚れのひどい鍋や油っばい皿にふりかけ、水でうろかしておけば、後で必死にゴシゴシやらなくても、サッと洗うだけでキレイに。
- 排水口に・・・洗面所、風呂場、トイレの排水のところに、たまにふりかけておけば、いつのまにかヌルヌルやつまりがなくなってきました。但し、髪の毛等の固形物はとくさないで、決して流さず、ちゃんと取り除いてネ。



※ 酢を加えるとよりパワーアップ！

無料サービスに注意！

宣伝の為と称して、無料でふとんクリーニングをしてあげると誘い、ふとんを取りに来るときに、強盗に変身する事件が、東京のひとり暮らし大学生宅であったと、ニュースで流されていました。

無料の勧誘には、悪質なものも多いので、くれぐれも気を付けましょう。



カゼの季節です。カラダの具合の悪いときは、管理人までお知らせ下さい。

がまんして、くれぐれもこじらせないようにネ。

氷河をとかせ！！

来春の引越し予定者の中に、就職する方が何人かおられます。就職氷河期といわれるこの時代、良きアドバイスを、ということでさっそくお二人にインタビューに、応じていただきました。

まずは薬学4年の木下君(210号室)

「エーッ、苦労なんて全然なかったスヨ」と明るく言われてしまいましたが・・・

決まった先は、順天堂伊豆長岡病院。実家に帰りたかったので、ここを選んだそうです。この10月に決まったばかりですが、その前には3ヶ所もの薬局から内定をもらっていたそう。(こんな時代にウラヤマシスギ。薬剤師はまだまだ売り手市場なんですね)

そんな木下君のところを後にして、次に伺ったのは理工電子・大学院生の赤石君(201号室)。ゼミではアンテナ関係を専攻していました。彼は日立国際電気が決まったのですが、フォレスト若松の最年長ということで、後輩の為に貴重なコメントをたくさん下さいましたので、その要旨を以下にまとめます。

From Mr. Akaishi

会社訪問は、大体卒業年の前年の2月頃からスタートします。今はインターネットでたくさんの情報が得られるので、こうしたツールを利用して、希望の会社についてよく調べておくの良いです。

説明会に出席したら、「質問ありませんか」の問いかけには、できるだけ手を上げたりして、存在感をアピールして下さい。企業側から“やる気あり”の印象を持ってもらえるかもしれません。また、たとえ募集が終わってしまっても、一人や二人追加で取ってくれるケースもあるので、問い合わせをしてみてください。

次に面接についてですが、想定問題に対する答えを用意しておくだけではダメです。面接官は、答えたことに対し、更に深くつつこんで聞いてくるので、付け焼刃の答えではすぐにバレてしまいます。

学生時代に学んだこと、打ち込んだスポーツ等、得意な分野を自分なりに説明できる準備をしておくことが大切です。企業によっては「研究したことを、作品などの形として持ってきて下さい。」というところもあります。

また、面接官は、質問したことに対して、「何を」答えるかではなく、「どう」答えるかを注目しています。つまり、答える時の言葉の中にその人の“人柄”を観察しているのです。従ってわからない時にはとりつくろわず、「わかりません」と言ってしまうのもいいと思います。また、面接に慣れる為には、第一志望の会社の前に、色々なところで面接をうけて、“度胸”をつけるのも手かもしれません。

ともかく求職活動というのは、“待ち”の姿勢はダメだということがよくわかりました。常に自分の方から動くこと。そしてそれが企業側からは“やる気”として好印象を持ってもらえるんですネ。

以上参考になりましたでしょうか。

貴重なお時間を、フォレスト若松の仲間のために割いていただいた木下君、赤石君、本当にありがとうございました。